

演劇・映画の
専門図書館

松竹大谷図書館ニュースレター

■ No. 268(2020年7月) ■

令和2年7月10日発行

■ 松竹大谷図書館は予約制での開館を継続しております ■

当館は6月1日(月)より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来館は「予約制」とさせて頂いております。

《ご利用について》

- 開館時間 10:00～16:00 (短縮しております)
- ご来館前日までに、お電話でのご予約をお願い致します。
松竹大谷図書館 03(5550)1694(平日10時～16時)

今後、開館日時やご利用方法につきましては、状況の変化にともない変更の可能性があります。

随時お電話でのご確認や、当館の[HP](#)、[Facebook](#)の更新をご確認下さい。

- ・公式HP <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>
- ・松竹大谷図書館 Facebook
<https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>

ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



閲覧室カウンターに設置したビニールシート(左)と段ボールパーテーション(右)

≫≫ お知らせ

■ 国立映画アーカイブ企画展「松竹第一主義 松竹映画の100年」開催

7月7日より、リニューアル工事が終了し再開館した国立映画アーカイブにて、企画展「松竹第一主義 松竹映画の100年」が開催されています。松竹映画100年の軌跡を、貴重な資料でたどる企画展です。当館からは、小津安二郎監督作品『秋刀魚の味』(1962年)の美術関連資料を貼り込んだスクラップや、近代演劇の革新者と言われる劇作家・演出家の小山内薫が指導・出演した、松竹キネマ研究所第一回作品『路上の霊魂』(1921年)の台本、大船撮影所助監督時代の大島渚、吉田喜重、田村孟、後に作家となった高橋治らが1956年に創刊した同人雑誌「7人」(1号)など、関連資料11点を提供しております。

また、企画上映「松竹第一主義 松竹映画の100年」も行われます。大正時代から2000年代まで、松竹を代表する映画が計79本(64プログラム)上映されます。ぜひご覧ください。

■開催情報■

企画展『松竹第一主義 松竹映画の100年』

会場:国立映画アーカイブ 展示室(7階)/会期:2020年7月7日(火)～2020年8月30日(日)/開室時間:11:00am～6:30pm(入室は6:00pmまで)/休室日:月曜日/観覧料:一般250円/大学生130円/シニア・高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)※料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。

詳細はこちら:<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/shochiku2020/>

企画上映『松竹第一主義 松竹映画の100年』

期間:2020年7月7日(火)～9月6日(日)/会期:会期中の休館日:月曜日/会場:長瀬記念ホール OZU(国立映画アーカイブ2階)/定員:111名(各回入替制・全席指定席)/弁士・伴奏付上映のある日は105名 ※前売指定席券のみ
詳細はこちら:<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/shochiku202006/>



『秋刀魚の味』スクラップ



『路上の霊魂』台本



雑誌「7人」

アーカイブ中核拠点形成モデル事業「全国映画資料アーカイブサミット 2020」 プレゼンテーション・シンポジウム 参加報告



2020年6月30日
参加者：武藤祥子

文化庁では、京都、東京を中心に、全国の資料館が所蔵する貴重な映画資料(*)を保存、活用するためのアーカイブの構築や運営、共同利用の促進等を目指した事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業(撮影所における映画関連の非フィルム資料)」を2018年度から行っている。この事業の一環として、本年3月に開催が予定されながらも、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となっていた「全国映画資料アーカイブサミット2020」が、本事業を受託しているVIP0(特定非営利活動法人映像産業振興機構)をはじめ、関係者の尽力により、6月30日にオンラインにて、新たなプログラムで開催された。参加者はzoomで視聴という、まさにオンラインでの報告会であり、当日は182名が視聴参加という盛況ぶりであった。

*ここでの映画資料とは、映画に関わるフィルム以外の資料(台本、ポスター、スチール、プレスシート、プログラム、小道具、衣裳など)を指す。フィルムに対してノンフィルム資料と称されることもある。



当館事務所でオンライン視聴

今回のサミットは、映画資料の保存・活用の基礎知識の習得、映画資料の価値及び権利課題について理解を深めることをテーマに、セミナー、プレゼンテーション、シンポジウムの構成となっており、まず、第1部のセミナーでは、日本図書館協会資料保存委員会委員長の眞野節雄氏が「映画資料の保存対策と防災」をテーマに、時世の問題を織り交ぜながら、図書館における資料保存の基礎知識についてお話しされた。

現在、多くの図書館や資料館が、新型コロナウイルス感染対策上、閲覧利用後の資料を、どのように取り扱うかについて悩んでいると思われるが、その対策として、まず資料の消毒についての話があった。アルコールや紫外線による資料の消毒も方法としてはあるが、いずれも資料に影響を与えたり、劣化を招いたりしてしまうため、お勧めしないとの事だった。結果、一番重要なのは資料を利用する側の手指の消毒であり、これに利用後の隔離、すなわち、紙の表面にウイルスが残存する時間分、利用後に放置する方法などを組み合わせて資料をウイルスから守り、感染を防ぐ工夫が必要であるという事であった。

続いて、図書館において資料を利活用するための保存方法についてお話し頂いた。所蔵資料が多い図書館においては、全ての資料の保存について万全の方策を講じる事は難しいので、出来る事、緊急を要する事から段階的に取り組む事が重要であり、資料の利活用にとって必要な修理を施す事が大事であるというお話であった。また、眞野氏は、東日本大震災で被災した図書館資料の救済に取り組んだ経験から、水没資料の頁同士の貼りつきが何故起こるのかを研究され、汚れた水が頁の貼りつきに作用する事を発見し、真水での洗浄などの画期的な対処法を編み出した。資料の水濡れ被害は、津波や洪水だけでなく、地震に伴う水道管やスプリンクラーの破損、或いは火災時による消火活動などによっても起こり得る被害なので、どの館でも日頃から復旧のための資材の備えや、緊急時の行動マニュアルが必要である。東京都立図書館における、資料が水濡れ被害を受けたと仮定しての防災訓練の様子の動画もご紹介頂いた。下記URLから視聴が可能である。

「被災・水濡れ資料の救済マニュアル」(下記 URL)

<https://www.youtube.com/watch?v=svCK-yQDy0s>

東京都立図書館 HP「資料保存のページ」(下記 URL)

https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/guide/about_us/collection_conservation/conservation/index.html

続いての、第2部「プレゼンテーション&シンポジウム」では、まずプレゼンテーション「映画資料所蔵館による自館紹介」と題し、東映京都スタジオの山口記弘氏、当館武藤、調布市立図書館越路ひろの氏の順に、自館の紹介を行った。

東映太秦映画村は、撮影所に併設された映画のテーマパークとして多くの映画ファンに愛される施設であるが、1975年の開村以来、東映作品を始め様々な映画関係資料を積極的に収集し、その所蔵資料は、現在ポスター約3万点、スチール写真10万点以上、プレスシート3万点以上、台本約1万5,000点、書籍約7000点、映像ソフト約5,000点など、総数20万点以上にのぼるという事である。しかし、大量の映画資料が保存されている事はこれまで一般にはあまり知られていなかった。東映太秦映画村では、2018年より、京都大学大学院人間・環境学研究所とVIP0の協力のもとで、資料の整理とアーカイブ化を進め、このほど7月1日に映画図書室がオープンする事を本事業の成果の一つとして、報告がなされた。映画図書室は「撮影所口」から入り、映画図書室のみを利用する場合は、映画村の入村料は不要である。あらかじめHPの資料検索ページで閲覧希望資料を検索のうえ、5営業日前までに資料閲覧申請フォームに入力し、閲覧申請を行う事で、利用が可能である。(東映太秦映画村 映画図書室HP <https://www.toei-eigamura-library.com/>)

続いて、松竹大谷図書館の武藤が、当館の概要と利用方法、所蔵する映画関連資料の特色、そして、図書館である当館が、映画資料をどのように整理・保存しているのか、という事を中心に、ご紹介した。

資料の特色としては、紙媒体の資料が中心で、基本的に博物資料や視聴覚資料は所蔵しておらず、全て寄贈で収集している事、また松竹をはじめ、他の制作会社の資料も幅広く所蔵しているが、中でも松竹作品については、豊富に資料を所蔵している事を説明した。資料の整理方法については、演劇と映画の両ジャンルの幅広い資料を整理して活用させるための独自の工夫を行っている事を説明。スタッフが手作りしている台本カバーや、多種多様な資料を効率よく整理・登録・保存するため、26の資料区分で、資料を管理している事などを説明した。また、目録データの特徴として、書誌と所蔵を分けて登録している事、また演劇・映画作品を内容から検索するための工夫として、内容に合わせた「件名」を入力している事、そして芸能人の襲

名や改名の変遷などを同義語に設定して、検索の利便性をあげている事などを説明した。

資料保存の取り組みについては、インターネットを利用したクラウドファンディングでの募集費用により、資料の保存やデジタル化を推進している事を説明した。ただ、クラウドファンディングでは、Webへの露出が難しい映画資料については、取り上げる事が難しく、これまでデジタル化や保存を行った事例は2件だけに止まっている事を報告した。

そして最後に昨年度の「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」で、当館が所蔵する松竹京都映画スクラップのうち厳選した31冊について、デジタル化の実証実験を行い、スクラップ資料という特殊な資料をデジタル化する事で、撮影前準備や撮影の手順、また今後の課題について検証した事をご報告した。

3館目の調布市立図書館は、公共図書館でありながら、調布市内に多くある映画撮影所や市内に住む映画関係者の協力を得て、主に日活や大映を中心とした映画資料を収集した映画資料室を持つ、特色ある図書館である。映画資料室では、撮影台本1,000種類、パンフレット2,300種類、ポスター3,000種、チラシ16,000種、スチール写真1,100タイトル6,200枚、ロビーカード1,800枚などを所蔵し、基本的には展示にて公開しているが、台本に関しては閲覧に供し、ほとんどのポスターについては館内の端末でデジタルデータの閲覧が可能である。また、映画関連書籍約33,000冊、雑誌115タイトル14,000冊を所蔵し、書籍と雑誌に関しては貸出も可能である。

かつて東洋のハリウッドと呼ばれた調布市では、現在も、角川大映スタジオや日活調布撮影所、東京現像所を始め40社程の映画・映像関連の企業が市内で活動しており、同館ではこうした近隣の映画関連企業と連携してイベントを実施するだけでなく、資料の寄贈を受けたり、映画製作のための風俗考証などの調査に協力したりといった活動を行っている。今後の課題としては、専門知識を習得したスタッフの育成、継続的な資料収集・長期保存処理・利用促進のための資料整理の予算の獲得、資料増加に伴う保存スペースの確保などがあげられた。

続いての、3館によるシンポジウム「映画資料所蔵館の課題を共有し、その改善に向けて」では、シンポジウムのモデレーターである国立映画アーカイブの岡田秀則氏を中心に、各館の特殊な活動や課題についてさらに深く掘り下げて、映画資料所蔵館ならではの資料保存や活用に対して、それぞれの資料館が抱える問題を共有した。映画関連企業との関係性や、寄贈資料の受け入れについて、また、資料の保存方法や、書庫の不足、或いは資料館同士の提携など、岡田氏をはじめ各館から興味深い話を伺う事が出来た。

プレゼンテーション・シンポジウムの参加者4名のうち、3名は築地の東劇ビル2階にあるVIP0会議室で、十分に距離を取って座り、同じ会場にいながらモニターに対して喋る形で、またもう一人の東映太秦映画村の山口氏は京都からの遠隔参加という、コロナウイルス感染防止対策として苦肉の開催方法ではあったが、オンライン開催ならではの利点も多くあったように思う。シンポジウムの最中も、メールやチャット機能を利用した一般参加者からの質問が流れるようになってきて、モデレーターの岡田氏が、その質問を登壇者に回して下さるという事が行われた。今回のケースでは、質問する側も文章での細かい質問が可能であり、モデレーターの手腕によるところも大きい。登壇者と参加者における双方向性は、オンラインの方がスムーズである事を実感した。

第3部のセミナーでは、「映画資料のアーカイブと公開に関する権利の課題」と題して、弁護士の福井健策氏が、映画資料のアーカイブ化とその公開時において、どのような壁があるのか、複雑な映画の著作権について、楽しく分かりやすく説明して下さい。会議のオンライン視聴者もクイズ形式で保護期間を計算したり、また肖像権を保護すべきかアンケートに答えたりするなど、参加型の講義を行って頂いた。また、著作権権利者が不明で調査困難なオーファン問題や権利の判断が微妙な肖像権などの問題も丁寧に解決方法を解説して頂いた。著作権への対応は、現在も日々進んでおり、最新の情報を確認する事が重要であるとの事で、具体的に次のような例が提示された。

- 1) 図書館・博物館などでのデジタル化推進
 - ・絶版など入手困難な所蔵資料をデジタル化可(著作権法31条1項2号)
 - ⇒端末等での館内閲覧(=上映)可(同法38条1項)
 - ⇒国会図書館を通じ他の図書館等に配信も可(同法31条3項ほか)
 - ※現在150万点、全国1189館参加(20/6現在)
- 2) 美術・写真の原作品展示者は、観覧者への解説・紹介のための上映・配信可能(同法47条・2018年改正)
 - ※HP掲載など可能に
- 3) コンテンツの所在検索サービスとそのためアーカイブ化可(同法47条の5・2018年改正)
 - ※表示は「軽微」な部分まで

最後にVIP0の榎田寿文氏から、アーカイブ中核拠点形成モデル事業の本年度事業の予定として、当館も参加する「映画資料所在地情報検索システム(仮称:NFA)」の構築や、「全国映画資料館録2020(仮称)」の作成、そして年度末の「全国映画資料アーカイブサミット2021(仮称)」の開催についての説明があり、今期も非フィルム資料に係る関係者のネットワークの拡大・深化、「映画資料所在地情報検索システム(仮称:NFA)」参加資料館の拡大、「全国映画資料所蔵館ネットワーク(仮称)」の発足を目的として活動する旨報告があり、以上を持って5時間に及び本サミットは、全てのプログラムが滞りなく進められ終了した。

▶ **新着資料案内** 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ **演劇雑誌** ■

『2BELL ニベル』Vol. 3/ 『AAC』2020年Vol. 104/ 『JOURNAL』8号/ 『JPL』2020年SUMMER No. 77/ 『つどい』52号/ 『ほうおう』2020年6月号-8月号/ 『テアトロ』2020年7月号/ 『フォーサム』No. 111, No. 116/ 『ヨーロッパ通信』17号/ 『ラ・アルプ』2020年7月号/ 『演劇創造』48号/ 『歌劇』1995年5月号, 2004年1月号-12月号, 2005年1月号-12月号, 2006年1月号-6月号, 8月号-12月号, 2007年1月号-12月号, 2008年1月号-12月号, 2009年1月号-12月号, 2010年1月号-6月号, 10月号-12月号, 2011年1月号-5月号, 7月号-9月号, 12月号/ 『義太夫』106号-110号/ 『御園座演劇図書館 Newsletter』Vol. 27/ 『大向う』令和2年7月号/ 『日本舞踊』72巻7月号/ 『舞台芸術研究』24号/ 『文芸研究』141号/ 『宝塚ファンタジー』Vol. 3/ 『邦楽の友』令和2年5月・6月合併号/ 『幕があがる。』Vol. 47

■ **映画雑誌** ■

『Cinema Trip』Vol. 01, Vol. 03-Vol. 09, Vol. 11, SPECIAL ISSUE/ 『SCREEN』2020年8月号/ 『おとなのデジタルTVナビ』2020年8月号/ 『キネマ旬報』2020年6月下旬号/ 『キネマ旬報』2020年7月上旬特別号/ 『キネマ旬報』2020年7月下旬特別号/ 『シナリオ』2020年8月号/ 『ドラマ』2020年7月号/ 『ムービー・スター』2020年8月号/ 『映画テレビ技術』2020年7月号/ 『映画撮影』No. 225/ 『映画時報』2020年5月号/ 『日経エンタテインメント!』2020年7月号/ 『日本アカデミー賞協会会報』85号-87号

■ **映画プログラム** ■ (順不同)

『コリーニ事件』『15年後のラブソング』『デッド・ドント・ダイ』『ストーリー・オブ・マイライフ わたしの若草物語』『ランボーラスト・ブラッド』『ポップスター』『グッド・ボーイズ』『ANNA/アナ』『水曜日が消えた』『ペイン・アンド・グローリー』『ドクター・ドリトル』『ソニック・ザ・ムービー』

▶▶ **お知らせ**

▼「資料をご寄贈くださった方々」及び、「新着資料案内」のうち「松竹系演劇公演資料」「他社演劇公演資料」「映画資料」は休載致します

■ **公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い** ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- **現在ご支援いただいている方々** (了承を得た方のみ掲載) 2020(令和2)年6月にご支援いただきました法人・団体 (50音順・敬称略)

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

有限会社合同通信社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

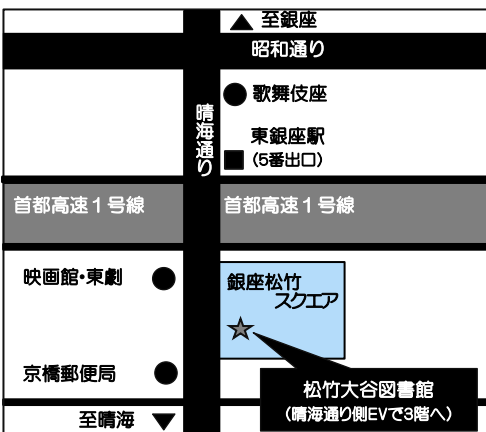
松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます



編集・発行:公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階/TEL 03-5550-1694

公式HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

公式 Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>

● **利用案内** ●

【開館時間】平日午前10時～午後5時／【休館日】土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期・夏期特別整理期間※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します／【閲覧】館内閲覧のみ／【入館料】無料／【コピーサービス】A4 1枚 白黒 50円, カラー 150円・B4 1枚 白黒 100円, カラー 300円 量が多い場合は翌開館日渡し、または郵送(送料は申込者負担) 但し、コピー不可の資料もあります

● **資料検索** ●

<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>

● **交通案内** ●

東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分

東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

